



Title	参考文献: 「観光と図書館に関するアンケート」調査結果
Author(s)	松本, 秀人; Matsumoto, Hideto
Description	第I部: 本論: 観光と図書館の融合について. 付属資料2
Relation	観光と図書館の融合 = The fusion of tourism and libraries
Citation	CATS 叢書, 5, 109-121
Issue Date	2010-07-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43224
Rights	© 2010 松本秀人
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS05_008.pdf



付属資料 2

「観光と図書館に関するアンケート」調査結果

◎概要:

- ・修士論文の補助的な調査として、下記の通りアンケートを実施した。
- ・アンケートの主旨は、「観光と図書館の融合」という、これまで図書館界では比較的なじみが薄い発想について、どのような感想や意見があるかを確認することにある。また関連する事項の実施状況なども併せてお訊ねした。
- ・本来ならば、全公共図書館にアンケートをすべきであったが、諸事由から今回は発送先を絞った。

◎実施: 2009年5～6月(郵送による)

◎対象: 188館 うち戻り数145館(回収率77%)

発送先区分	発送数	戻り数	(備考)
1) 北海道内全館	100	71	* 道立図書館を除く (札幌市を含む)
2) 都道府県立	47	37	
3) 政令指定都市	17	15	* 札幌市を除く
4) 主な観光地の図書館	16	14	
5) 活動が顕著な図書館	8	8	
計	188	145	回収率 77%

* 「主な観光地の図書館」(観光地内にある場合や隣接する場合を含む)

草津町、日光市、熱海市、伊勢市、奈良市、出雲市、別府市、由布市、沖縄市、高山市、下呂市、軽井沢町、鎌倉市、箱根町、大田市、屋久島町

* 「活動が顕著な図書館」(文献などで、活動ぶりがよく紹介される図書館)

浦安市立中央図書館、矢祭もったいない図書館、静岡市御幸町図書館、上田情報ライブラリー、山中湖情報創造館、斐川町立図書館、愛荘町立愛知川図書館、千代田区立千代田図書館

<アンケート全体の分析>

- ・「観光と図書館」という比較的回答がしにくいであろうと思われるテーマにもかかわらず、予想外に回収率が高かった。アンケート前は「観光と図書館を関連づける主旨がよくわからない」あるいは「図書館は地域住民のためがあるので、観光客の利用はあまり考える必要はない」等の反応が多いかと予想していたが、どちらかというとな否定的な反応は少なく、「サービスのひとつとしてあり得る」、あるいは「これから考えてみたいテーマのひとつである」といった肯定的な反応が多かった。
- ・ただし、回答やコメントの内容などからみると、地域によって図書館運営そのものや地域外利用者への対応などが様々であることが改めてうかがわれる。また「図書館」の位置づけや「観光」のとらえ方も図書館および地域によって様々であり、今後、「観光と図書館の融合」について実践がなされる場合は、地域の個々の事情や判断を十分にふまえることが必要であると感じた。
- ・また、「観光と図書館の融合」という発想ではないにしても、観光パンフを置いたり、

観光関連の展示会を開くなどの取り組みは、各地の図書館ですでに実施されていることもわかった。

- アンケート項目のうち「感想・意見」を求めるものについては、図書館としての公式見解である場合やアンケート回答者個人の感想である場合が混在しているので、分析にあたっては留意する必要がある。

[補記]

- 各館のコメントは主旨を損なわない範囲で調整した。
- コメントには、「道内」（＝北海道内の図書館）、「都道府県」（＝都道府県立図書館）、「政令」（＝政令指定都市の図書館）、「観光地」（＝主な観光地の図書館）、「活動」（＝活動が顕著な図書館）の識別を付与した。
- コメント冒頭に「◎」（＝大いに）、「○」（＝ある程度）、「△」（＝あまり）、「×」（＝まったく）の識別マークを付与した。

【問1】 貴館では、観光客が利用している様子がみられますか？

<input type="checkbox"/> よくみかける	11 (7.6%)
<input type="checkbox"/> たまにみかける	71 (49.0%)
<input type="checkbox"/> ほとんどみかけない	43 (29.7%)
<input type="checkbox"/> わからない	18 (12.4%)
無回答	2 (1.4%)

【分析】

- ・「わからない」という回答が多いかと予想していたが、回答者の個人的な感想も含めて、観光客の利用状況について、なんらかの印象を得ている様子うかがわれた。

【問2】 貴館では、観光客の利用状況について、アンケートなどの実態調査をされたことがありますか？

<input type="checkbox"/> ない	144 (99.3%)
<input type="checkbox"/> ある	0 (0.0%)
無回答	1 (0.7%)

【分析】

- ・アンケートの対象館では、観光客の利用状況に関する調査は実施されていなかった。
- ・なお、図書館の利用状況については、各館でアンケートなどによって調査されることがあり、それにより地域外からの利用状況はある程度把握することができる。「観光客」という限定的なものではないが、参考にはなると思われる。

【問3】 以下について問い合わせはありますか？ (地域住民、地域外利用者を問わず)

1) 貴館地域の観光に関する情報やイベント・祭りなどについて

<input type="checkbox"/> よくある	9 (6.2%)
<input type="checkbox"/> ときどきある	74 (51.0%)
<input type="checkbox"/> あまりない	62 (42.8%)
<input type="checkbox"/> わからない	0 (0.0%)
無回答	0 (0.0%)

2) 貴館地域の交通情報、宿泊施設、グルメスポットなどについて

<input type="checkbox"/> よくある	9 (6.2%)
<input type="checkbox"/> ときどきある	69 (47.6%)
<input type="checkbox"/> あまりない	67 (46.2%)
<input type="checkbox"/> わからない	0 (0.0%)
無回答	0 (0.0%)

3) 貴館地域の地域文化や地域の歴史、地域出身の偉人や有名人について

<input type="checkbox"/> よくある	65 (44.8%)
<input type="checkbox"/> ときどきある	62 (42.8%)
<input type="checkbox"/> あまりない	18 (12.4%)
<input type="checkbox"/> わからない	0 (0.0%)
無回答	0 (0.0%)

【分析】

- ・ 1) や 2) は、どちらかというといふ図書館への質問としては一般的ではないので「ときどき」が多いのは予想どおりであったが、「よくある」も予想外に多かった。
- ・ また、3) は図書館の得意とする事項なので、「よくある」という傾向が予想どおりみられた。

[問4] 以下のサービスを実施しておられますか？

1) 地域住民以外の利用者登録が可能

- はい 103 (71.0%)
- いいえ 40 (27.6%)
- 無回答 2 (1.4%)

2) 利用者登録をしていなくても、身分証明があればすぐに図書の貸出が可能

- はい 27 (18.6%)
- いいえ 115 (79.3%)
- 無回答 3 (2.1%)

3) 観光用パンフや地域のガイドマップなど観光系資料の展示や配布

- はい 107 (73.8%)
- いいえ 37 (25.5%)
- 無回答 1 (0.7%)

4) 地域の市民活動、NPO、ボランティアなどのポスターやパンフの展示や配布

- はい 112 (77.2%)
- いいえ 31 (21.4%)
- 無回答 2 (1.4%)

【分析】

- ・ 1) は予想外に「はい」が多かった。ただし「地域外」といっても近隣自治体に限る場合もあるので、必ずしも観光客に便利とは限らない点に留意が必要である。また 2) は、2) は、1) との関連で、例えば「誰でも利用者登録ができるので、実質的に“すぐに貸出が可能”と同じ」という館もある。
 - ・ 3) と 4) は予想外に「はい」が多く、地域に関する情報の周知活動に図書館が努力している印象を受けた。
- *なお、最近では“地域外”の紹介パンフなどを揃える図書館も出現してきている。

[問5] 貴館は視察を受けることがありますか？

- よくある 17 (11.7%)
- ときどきある 88 (60.7%)
- ほとんどない 35 (24.1%)
- まったくない 5 (3.4%)
- 無回答 0 (0.0%)

【分析】

- ・ 「よく」と「時々」を併せると 72.4%に達し、予想した以上に視察が行われているとい

う結果であった。

【問6】 地域資料の収集について、どのような方針でいらっしゃいますか？

<input type="checkbox"/> 積極的に収集するようにしている	109 (75.2%)
<input type="checkbox"/> ある程度、収集の努力をしている	33 (22.8%)
<input type="checkbox"/> あまり地域資料の収集には力を入れていない	3 (2.1%)
<input type="checkbox"/> ほとんど地域資料は収集していない	0 (0.0%)
無回答	0 (0.0%)

【分析】

- ・ 予想したとおり、どの館でも地域資料には関心が高い。ポイントは、図書館が努力して収集した地域資料を、地域住民や観光客に周知したり、あるいは地域の活性化などに有効に活用するという点にあると思われる。

【問7】 貴館は地域振興や地域の活性化に貢献していると思われませんか？

<input type="checkbox"/> 大いに思う	20 (13.8%)
<input type="checkbox"/> ある程度思う	83 (57.2%)
<input type="checkbox"/> あまり思わない	26 (17.9%)
<input type="checkbox"/> わからない	16 (11.0%)
無回答	0 (0.0%)

【コメント】

- ・ ボランティア活動や地域住民の様々な交流の場として利用されている。(同様多数)
- ・ 行政当局や各種団体・民間企業などへ様々な情報提供を行っている。(同様多数)
- ・ 自治体のまちおこし計画と連携して、図書館が活動の一端を担っている。(道内)
- ・ 市町村立図書館へのバックアップを行っている。(都道府県)
- ・ 地域資料の積極的な収集・保存により郷土文化に寄与している。(都道府県)
- ・ 地域のイベントに合わせた行事や企画展などを行っている。(政令)
- ・ 図書館は集客力のある施設であり、地域のにぎわいをうみだし、地域の活性化につながっている。(政令)
- ・ 観光客や地域に別荘を持っている人への対応を通して地域に親しみをってもらい、それにより来村回数が増えたり滞在日数が増えたりしている。(活発)
- ・ 地域史の編纂に協力したり、地域文化に関する展示や小冊子の発行をしている。(活発)
- ・ 子供の読書活動の推進や市民の生涯学習の場を提供している。(活発)

【分析】

- ・ 傾向としては「大いに」「ある程度」が多かった。しかし、「なにをもって地域への貢献とするか」は、コメントなどをみると、図書館自身でもその判断が難しいのではと感じられた。「わからない」も16館あった。

【問8】 貴館の蔵書は、地域的な個性を持っていると思いますか？

<input type="checkbox"/> 大いに持っている	55 (37.9%)
<input type="checkbox"/> ある程度持っている	62 (42.8%)
<input type="checkbox"/> あまり持っていない	25 (17.2%)
<input type="checkbox"/> ほとんど持っていない	2 (1.4%)
<input type="checkbox"/> わからない	1 (0.7%)
無回答	0 (0.0%)

【分析】

- ・「大いに」「ある程度」が多数で、自館の蔵書に地域的な個性があると考えている傾向がみられた。所蔵するコレクションを具体的に述べたコメントもみられた。
- ・図書館側では「地域的な個性を持っている」と思っているが、利用者側が、その図書館に、どれほど地域性や個性を感じているかという点には留意すべきであろう。

【問9】 「図書館は観光や観光客と様々な関連がある」という主張を聞かれて、どのような感想を持たれますか？

◎大いに納得できる	28 (19.3%)
○ある程度納得できる	100 (69.0%)
△あまり納得できない	15 (10.3%)
×まったく納得できない	1 (0.7%)
無回答	1 (0.7%)

【コメント】

- 図書館は地域の情報拠点であるから、地域のことを知りたいと思う観光客への情報提供という意味では、関連があるのは当然だ。(同様多数)
(道内)
- 地域の文化や歴史などを知るのに図書館は適している。
- △図書館だけで観光客に対応するのではなく、各施設や関連機関と連携することが大切だ。
- △関連はあると思うが、実際のところは、観光客が地域情報を入手するのは観光窓口や情報誌などが多いのではないか。
(都道府県)
- 観光中のみならず、事前の問い合わせにより地域理解に役立つ資料を知ることができる。
- ◎地域文化や地域史などの情報はネットでは入手しづらいことも多いので、図書館を活用してもらいたい。
- △「観光」は図書館に来館する多彩な目的のひとつに過ぎず、当館で特に観光を意識することはない。
- 県の観光関連企画に対して情報提供などでサポートを行っており、そうした点で関連はある。
- △ある程度納得できるが、訪問先で図書館に行こうとはふつう考えないのではないか。インターネットや市販のガイドブックの情報で済ませてしまうのではないか。
- 行事や祭りなどがあると、観光客らしき人の利用が増えるので主張には同感する。
- ◎豊かな観光を行うにしても提供するにしても情報や資料が必要なので、当を得た主張と考える。
- ◎県の総合的な情報拠点として、観光関連情報にも目配りがなされるべきであり、観光ポータルとしての役割も担えると考えている。
- 単なる観光の案内所ではなく、多くの資料や情報の集積がバックボーンとなっている点

が活かせるのではないか。

(政令)

- 駅の近くや市の中心部にある図書館においてはそうだと思う。
- 旅行ガイドや旅行雑誌などの観光系資料のみならず、地域の文化や歴史などを深く掘り下げたい場合でも、図書館は様々な資料の提供ができる。
- ◎その土地にわざわざ足を運んだ観光客にとって「そこでしか体験できないもの」は不可欠。図書館に特色や個性をもたせて観光ルートのひとつに組み込むことができれば、地域活性化にもつながるし、観光客はさまざまな資料を閲覧することにより地域への興味もふくらむ。

(活発)

- ◎主張に同感。ところが観光ガイドに図書館が紹介されることはないし、観光マップに掲載されることもほとんどない。これは改善されるべきだ。

(観光地)

- ◎地域をより深く観光客に知ってもらうために、サービスの展開を考えたい。
- 図書館は、観光情報センターや道の駅とならぶ地域情報発信拠点のひとつである。
- ◎図書館はそもそも「情報提供を行う施設」なので、観光客へ地域の情報を提供することは重要な任務であると考ええる。

【分析】

- ・否定的あるいは懐疑的な反応が多いかと予想していたが、肯定的な反応が多かった。コメントの全体的な傾向をおおまかにまとめると、「図書館は地域の情報拠点だから、観光者へも地域情報や観光情報を提供するの当然」となる。
- ・図書館員は、図書館が地域情報を保存・提供する機関であるということを熟知しているが、利用者が、図書館を単に「本を借りる場所」としてしかとらえていないと、「観光に際して図書館を利用する」という発想は起こりにくい。
- ・地域住民に「図書館が地域情報の宝庫である」という認識が広がれば、図書館をまちづくりや観光振興に活用するという可能性を持つ点にも留意したい。

【問10】 「観光客も図書館の利用者として考えられるべきだ」という主張を聞かれて、どのような感想を持たれますか？

◎大いに賛成	33 (22.8%)
○ある程度賛成	92 (63.4%)
△あまり賛成できない	16 (11.0%)
×まったく賛成できない	0 (0.9%)
無回答	4 (2.8%)

【コメント】

(道内)

- 駅の近くに立地しているので、観光案内所的な役割も実際に行っている。
- △貸出を含むすべてのサービスが、居住地域と同じレベルで受けられるというのは疑問である。
- △利用者として歓迎はするが、観光客への対応を高い優先順位におく状況ではない。
- テーマを絞った目的の観光であれば、資料館としての側面を図書館は有しているので、図書館の活用も有用だ。
- 観光客を利用者として想定すると、設備の充実が必要だ（トイレなど）。
- ◎観光客が地域を訪れた時に、「まずは図書館に立ち寄ってみよう」と思ってもらえることを目指したい。

- ◎地域の情報を収集・提供することは図書館の役割の大切な部分であり、その情報の利用者には当然、観光客も含まれる。
- △道の駅に隣接しているので、観光シーズンにはトイレの利用者が結構来る。不特定多数の人が自由に出入りする施設としては、危機管理面での対応も必要になる。
- 立地にもよる。交通に不便な場所にあると観光客は訪問しにくいだろう。

(都道府県)

- ◎観光で訪れた地域の歴史を知るうえで、最も的確な情報を得ることができる施設として、もっと活用してもらいたいと考える。
- 立地条件などにおいて、地域住民と観光客の利便性が背反する場合もあると思う。
- ◎わざわざ他県から観光のために来県されたお客様に、情報提供することは図書館として当然のことと考える。
- △当館の運営の柱のひとつに「調査研究のための図書館」がある。当県について知っていただくことは大いに結構だし、観光客だからといって利用を拒むことはないが、特別扱いして特に便宜を図るつもりはない。
- 情報サービスの対象者としてレファレンスサービスは行うが、貸出については県外住民へ拡大する予定はない。
- 小規模な図書館の場合は、地域内の利用者が不便にならないように注意が必要だ。
- ◎訪問先の図書館で、観光客が文化や歴史などを調べることにより、観光体験が豊かなものになるのは喜ばしいことだが、どれくらいの観光客がそれを必要としているのか。またそういった利用者に図書館がどの程度対応できるのか等、課題は多い。
- △図書館は誰にでも開かれた施設なので、利用は当然可能であるが、地域住民と同じサービスという訳にはいかない部分もある。
- 当館は利用者登録に際して住所による制限を行っていないので、観光客でも登録が可能。図書館を利用したい人がいれば、誰でも利用者として対応すべきである。
- ◎観光客がその旅先の情報を効率的に得ようとする場合、その土地の図書館を活用するのは選択肢として当然ありうる。
- ◎当館ではネット環境を利用者に提供しているので、図書館でネット検索をすとか、ブログを旅行中にアップするという利用も可能である。

(政令)

- 利用者登録に難はあるが、観光の際に立ち寄って地域資料や地方新聞を手にするにはあり得る。
- 閲覧については大いに賛成であるが、館外貸し出しについてはクリアすべき問題が多いと考える。
- ◎観光客の「知る権利」を満たすためにも、いつでもどこでも図書館は利用して欲しい。また自分の居住地の図書館と比較することで、図書館のもつ様々な面を発見して欲しい。

(活発)

- 利用登録や貸出などはできないが、地域の情報を提供することはできる。
- ◎郷土資料や地域資料などを収集・整理し、提供することは当館の重要な任務だが、そこで「観光客」という全く予備知識のない利用者を想定することによって、「どうしたらよりわかりやすい資料づくりができるか」という点でトレーニングにもなると考えている。
- 他の地域の図書館を観光の際などに訪問することによって、地元の図書館と比較ができるので、その感想を地元の図書館が聞くことによってサービスが向上する機会となる。

(観光地)

- 体験型観光など「団体ツアー」の対象として図書館をみた場合、蔵書、職員数、建物などの点で、集団での来館は物理的に対応が難しい。
- 地域の詳細な情報について最大の拠点なので、役所や他の公的機関が休みの土日に効果が大きい。
- 当地では短期・長期滞在者とも図書館を利用している現状があり、観光客にとって有用

なサービス機関となっている。

- ◎当町には「歩み入るものにやすらぎを、去り行く人に幸せを」という町民憲章がある。この町民憲章を全町民がそれぞれの立場で実践しており、図書館も同じである。図書館が観光客を排除するような事態になれば、図書館の存続にもかかわる重大事に発展する。

【分析】

- ・この質問についても、事前に予想した以上に肯定的な反応が多かった。
- ・コメントの中で、「利用自体は歓迎するが、貸出には問題がある」という反応が目立った。観光客が図書館を訪問することには特に問題がないとしても、実務上は、貸出をはじめとする様々なサービスについて、「観光客（地域外利用者）にどのように対応するか」という判断は、様々な地域事情などをふまえ、各館ごとに異なるだろう。

【問 1 1】 「広報や Web などを使って、図書館は地域の情報を積極的に発信していくべきだ」という主張について、どのような感想を持たれますか？

<input type="checkbox"/> 大いに賛成	62 (42.8%)
<input type="checkbox"/> ある程度賛成	67 (46.2%)
<input type="checkbox"/> あまり賛成できない	11 (7.6%)
<input type="checkbox"/> まったく賛成できない	0 (0.0%)
無回答	5 (3.4%)

【コメント】

(道内)

- 図書館が地域の情報のすべてを把握して発信できるわけではないので、いろいろな所との連携が必要不可欠になると思う。
- ◎全く正論である。地域情報の発信は、地域の活性化や住民意識の向上にも寄与する。
- 地域情報をそのまま発信するのではなく、それらの情報を収集し、図書館の資料により付加価値をつけていくことが重要だ。
- △行政には広報を担当する部署がある他、ホームページも開設しており、地域のあらゆる情報は、一元的に収集・発信するほうが利用者にわかりやすい。
- ◎地域づくりの拠点として情報の収集・発信に努めるべき。
- △図書館の業務ではない。
- △地域の情報発信は他の部署で行っているのだから、図書館は自館に関する情報発信でよいと思う。
- ◎これからの利用増をはかるためにも、図書貸し出しだけでなく、いろいろな情報発信基地としての役割が大切だ。
- 主張には賛成するが、現実問題として予算や人員、ノウハウが不足している。
(都道府県)
- ◎地域の情報拠点として位置づけられる図書館は、暮らしに役立つ情報を広範囲に発信することは図書館の使命と考える。
- 現在もHP上で、図書館所蔵の様々な貴重な資料を紹介している。また関係機関ともリンクしているし、デジタル画像ライブラリーなどのコンテンツも豊富に用意している。
- 「地域の情報」にどのようなものが想定されるかにもよると考える。たとえば観光情報については専門の部署もあり、図書館としてどう関わるか、細かな検討が必要であろう。
- ◎当館では「文化と知的探求の拠点」として、生活に関連するテーマを決めて図書を展示したり、地域の活性化につながる文化・産業などについて、他の行政機関と連携して情報発信している。
- 図書館はもともと情報や資料を提供する機関なので、その位置づけで行うなら意味があ

る。

○図書館の所有する資料を、デジタル化などによって有効活用することを考えたい。

(政令)

○チラシやパンフレットなどはある程度置いているが、地域情報の広報までは、あまり力を入れてやっていない。

○地域の歴史について、広報誌での情報発信を実際に行っている。

◎地域住民でも、図書館に来たことのない人はまだまだたくさんいる。広報活動は観光客のみならず、まず地域の人々に知ってもらう上でも積極的に行いたい。

(活発)

◎ほとんどの公共図書館では「広告宣伝費」を予算計上していないので、自治体が発行する「広報」や印刷製本費のかからない「Web」を使った情報発信を、もっと積極的に活用することには大賛成である。

(観光地)

○地域の情報を発信するというよりは、図書館の目的からいって、地域への支援情報をまず発信したい。地域への情報提供が観光へもつながると思う。

○図書館の特性を活かした情報発信は積極的に行っていくべきだ。

○情報を発信しなければ地域の発展は望めないなので、必要だと考える。

○図書館が積極的に発信するというよりは、様々な部署や団体などと連携することが大切だと思う。

【分析】

- ・全体的には肯定的な意見が多かったが、他の機関との連携のあり方や情報発信の内容などに検討が必要というコメントも多くみられた。
- ・図書館のみならず、パブリックセクターの広報のあり方が、こんにち全般に見直しを迫られている。特に図書館は「地域の情報拠点」という役割を担っているので、これまでの伝統的な「図書館広報」のみならず、Web2.0的な手法も含めたインターネットや様々なメディアの利活用による情報発信や受信について、いっそうの研究と対応が必要になると思われる。

【問12】 貴館では、観光に直結した活動をなにかされていますか？

【コメント】

- ・36館ほどからコメントがあり、まとめると「観光パンフの展示や地域紹介コーナーの設置」「地域の観光イベントに関連したイベントや展示の開催」「複合施設内にあるため、それらの施設と連携して観光客への対応」などが主であった。

【分析】

- ・「観光に直結した活動」という訊き方をしたため「特になし」という回答も多かったが、各館の真意としては「“直結した活動”はしてはなくても、資料やサービスを通して、観光客にも貢献している」と感じられたろうと推察する。

【問13】 このアンケート、あるいは「観光と図書館」というテーマについて、なにかご意見やご感想がございましたら、ご自由にコメントをご記入ください。

【コメント】

(道内)

- ・図書館にとって郷土資料、地域資料の収集・提供は重要な柱である。観光振興のセクションとの連携を深めて、観光客へのサービス向上につなげたい。
- ・当館を起点とした観光散策コースの作成など、駅の隣という立地条件を活かした取り組みを行っていききたい。
- ・「旅先の図書館に行けば、その土地の文化がわかる」ということはすばらしいと思う。そのためには個性ある図書館運営やPR活動が必要だ。
- ・立地条件などからみて、当館は観光客への直接的な関与より、市の観光課や観光協会の事業協力など、裏方的な観光支援に力を注ぐべきではないかと思う。
- ・観光振興に図書館との関係を視点に加えることはとても有意義であるし、図書館としても勉強していかねばと感じるが、観光地の地域差は大きいので多様なパターンを考える必要があるのではないか。
- ・観光客が資料の提供を図書館に求めることがあるとしても、有名観光地でさえ地域住民からの要望に比して副次的なものではないだろうか。図書館のコア活動は地域への奉仕であって、その一側面ととらえるべきである。
- ・図書館は地域住民のためのもので、特に観光や観光客のために整備しなくてもよいと思う。
- ・本館は、近隣に特に目立つ観光施設はないこともあって、観光客が立ち寄ることがほとんどない。情報発信とは別に、観光客が立ち寄るための方法を考えることも重要だと思う。
- ・観光に出かけた先でわからないことなどがあつたとき、「とりあえず図書館に行ってみよう」と思う人は多いと思う。期待に応えられる対応ができるように努めていきたい。
- ・このテーマは、各地域によって受け取り方に差があると思う。当市の場合は観光と結びつく傾向にはない。
- ・地域の情報発信基地としての図書館の役割は増大しており、今後も力を入れていきたい。

(都道府県)

- ・観光客へのサービスという部分だけに焦点をあてると、「どうして税負担のない人（地域住民でない人）にサービスするのか」という疑問がおこる。一方で、観光客にとって図書館は有用な資料や情報を揃えており、それが地域外の人を地域へ呼ぶことにつながるという点からみれば肯定的に捉えられると思う。
- ・観光と図書館の関係は、一般的にあって、①図書館が観光地にある、②図書館が観光ル

一トの通過点にある、②図書館自体が歴史的・文化的な建造物である、という場合でない大きな議論になりにくいのではないか。

- ・図書館界で、これまであまり考えられてこなかった面白い視点だと思う。
- ・図書館は、観光客にとって必要な様々な情報を持っているので、「観光するときは必ず図書館によって情報を得たい」と思うような情報提供に努めたい。
- ・県立図書館と市町村立図書館とでは、観光に対する関わり方が異なる面もあるだろう。
- ・視点は興味深いが、図書館を観光に結びつける過程がイメージしにくい。
- ・県の商工観光労働部から郷土資料関連のレファレンス依頼があったり、地域情報を提供する機会が多い。観光資源の見直しのためにも、地域資料は重要な情報源といえる。観光客を対象とするだけでなく、観光や地域おこしに関わる行政・商工会・ガイドを行うボランティア・NPO・ホテル業界などを視野に入れた「図書館の役割」が考えられるのではないか。
- ・通りいっぺんの観光の時代は終わり、地域同士の知的交流が求められている今、図書館は重要な観光資源と考える。
- ・新たな図書館機能を考える上で、重要なテーマだと考えている。利用者のニーズに応えるという従来型のサービスから、サービスそのものを開拓し、新たな利用者を獲得していくという観点で重要な視点である。

(政令)

- ・観光の現場では資料の保存が困難だと思われるので、観光を主な業務とする部署と図書館が資料の提供や保存で協力体制をとれるとよいと思う。
- ・図書館がその地域の観光の情報拠点のひとつになるといいと思う。

(活発)

- ・「市内観光客の半数以上は市民である」という調査を聞いたことがあり、市民サービスとの両立も十分可能と考える。
- ・これからの観光において必要不可欠となる「地域コンテンツ」をきちんと収集し、地元や観光客に提供できる公的機関として、図書館は重要な役割を持つ。「その図書館にしかない地域コンテンツ」に着目することが必要だ。
- ・「観光のために図書館がどうあるべきか」だけでなく「図書館のために観光がどうあるべきか」も考えるべき。

(観光地)

- ・観光客へのアピールや誘客は観光課がメインで行っているので、当館がすべきことは観光課への積極的支援である。あくまでも図書館の主たる目的は、地域住民のニーズに応えた蔵書構成を行うことである。
- ・県外からの来館者のうち一般観光客はごくまれであるし、道の駅や観光情報センターに置いてあるパンフレット以上のものを望む観光客が少ないのが現状。今後、こだわりのある観光を観光客が目指すようになれば、図書館が必要になってくるのではないだろうか。また、いずれ観光ガイドブックに図書館が掲載されるようになれば、観光の熟度も高まるだろう。
- ・国内外の観光客に多く来訪いただいている当市の状況を意識した図書館サービスを進めていければと、認識を新たにしたい。
- ・一般論として、観光地（特に温泉地）には図書館が設置されていないことが多く、あっても貧弱な場合が多いので改善が必要だという感想を持っている。
- ・観光と図書館を結びつける取り組みとして、まずは郷土資料の掘り起こしをすべきだ。
- ・このテーマは図書館だけでは成立しない。観光担当の部署や観光協会、旅館組合などとの連携や情報交換も大切な要素だ。例えば、観光協会が発行するガイドマップに図書館が掲載されている事例や、観光協会のHPに図書館のリンクが張ってある事例など、図書館と他機関が連携している事例の研究を進める必要がある。

【分析】

- ・予想していた以上に「これから考えてみたい」「興味深いテーマだ」という傾向の反応

が多かった。

- 「観光と図書館」という比較的なじみの薄いテーマによるアンケートに対して、多くの返信が寄せられたこと、および、そのコメントの内容などからみて、今回のアンケート全体を通しての印象としては、「図書館のあり方に、より柔軟な発想が必要だ」という図書館界全体の傾向が感じられた。
- 「観光」も「図書館」も様々な点で変化が起こっており、これまでとは異なった発想が求められている。そこで「観光と図書館の融合」についても、その可能性を各図書館が検討することによって、図書館の新たなサービスを展開するためのヒントがもたらされると考えられる。